

議長定例記者会見の概要

日 時：令和7年10月8日（水）
午前10時41分～10時50分
場 所：議長応接室



外山 衛 議長



日高 陽一 副議長

9月定例会を終えての議長の所感

（外山議長）

本日は、お忙しい中お集まりいただき、お礼を申し上げます。

9月定例会も本日をもって34日間の会期を終えたところでございます。

代表質問では4名、一般質問では10名の議員が質問に立ち、外国人材確保対策や2年後に迫った宮崎国スポ・障スポの取組状況、防災・減災対策、農業振興、医療、福祉、教育行政など、県政の課題について、活発な議論が展開されました。

また、常任委員会及び特別委員会において付託された議案の審査や所管事項の調査などが行われました。今定例会では、物価高騰や人材確保に係る事業が盛り込まれた補正予算など、合計29件の知事提出議案をすべて認めたところです。

このほか、議員発議により「最低賃金の引き上げに伴う中小企業・小規模事業者への支援対策の更なる拡充を求める意見書」を可決いたしました。

また、今定例会では、決算特別委員会を設置し、令和6年度の決算関係議案について審査を行いました。今後、年々増加する社会保障関係費や国土強靱化対策、物価高騰への対応など、多額の財政負担が見込まれていることから、執行部に対して、引き続き健全な財政運営を行うよう求めたところです。

県議会としても、県政全般にわたり、県民目線に立った徹底した議論を、引き続き行うことで、議会に求められる役割をしっかりと果たしてまいりたいと思います。

また、今定例会においては、宮崎産業経営大学の学生3名をインターンシップとして受け入れました。私と日高副議長も、直接、意見交換して、若者の意欲的な姿勢に刺激を受けたところであります。報道機関の皆様には、この取組を取り上げていただき、感謝申し上げます。

私からは、以上であります。

質疑応答

【宮崎日日新聞】

今年度、県議会に設置された外国人材確保・雇用対策特別委員会において、委員の方々がインドネシアへ海外調査に行かれると思います。本県の労働力不足が深刻化する中で、委員の方々にはどのようなことを期待していますか。

(外山議長)

議場でも質問がありましたが、人手不足に対する関心は非常に高いと思います。既にある程度の外国人材は来ていますが、送り出し側の取組・意向などを現地での意見交換により把握することが大事だと思いますので、今回の調査は前向きで意義のある提言につながるものと考えています。

【宮崎日日新聞】

近年、小林市議会やえびの市議会などで議員定数の削減が進んでいますが、県議会における定数削減の必要性について、議長はどのように考えていますか。

(外山議長)

県土の形や地域性から、いろいろな意見が細かく県政に反映できるかということを考えたときに、現在の39名が適正ではないかと考えています。国勢調査の結果が来年に公表されると思うので、検討するにはまだ早いと思っています。

(日高副議長)

現在、議員の数が減っている状況にあります。

小林市・西諸県郡や日向市といった5万人ぐらいの人口がいる中で議員が1人で担当している現状はなかなか厳しいという声も聞いております。そこは、国の法律の問題もありますが、改善しないといけないのではないかと思います。

【読売新聞】

開会中に自民党総裁選があり、高市早苗さんが初めて女性総裁に選ばれました。このことについて所感を伺います。

(外山議長)

変化を求める意味でも、刺激になっていいと思っています。どのような政策を打ち出して、それがどれだけ反映できるかは未知数でありますけれども、この時期の思い切った変革は面白い展開になるのではないかと思います。

(日高副議長)

議長のおっしゃるとおりですが、女性初の総裁ということで期待する面が大きいのではないかと思います。今後、しっかりと新しい日本をつくっていただくための様々な施策などに注視していきたいと思っています。